

二〇二三年一月三日

五線譜に似たる軒端の吊るし柿
励ましの会話に満ちて冬温し
地に落ちて好かれ嫌はれ銀杏の実
田仕舞の烟三輪山隠しけり
常緑の森に一と本櫨紅葉

みきえ たか子 はく子 明日香 せいじ

みきお 康子

二〇二三年一月一日

黒千代香に秋草を挿す武家屋敷
澄む池へ迫り出してをる臥龍松
碧天の豆柿花火めきにけり
独り身となりし家居や隙間風

二〇一三年一〇月三一日

露草や下駄を濡らして鯉に餌
ハロウインの仮装のままに老眼鏡
柿たわわご自由にと札立てられて
塵取りに金木犀の香の残る

満天 こすもす 素秀 みきお

二〇一三年一〇月三〇日

栗名月かかげて高し鼓門
墨流すごとき棚雲月今宵
スタートの火薬の匂ひ運動会
むらさきが席巻したる秋花壇

二〇一三年一〇月二九日

夕映の色もらひたる熟柿かな
満月や誰か運転替つてよ
トロツコの軋みて下る蜜柑山
村雨に朝日の虹の生まれけり

地球儀に戦火の地ある秋思かな
藁ぼつち稚児の散らばり遊ぶごと
ハロウインのかぼちや花屋に並びけり

毎日句会みのる選・二〇一三年一月五日

なつかえら あひる 智恵子 うつぎべ